

第一次調査 藤原宮 朱雀門・内濠・外濠の調査

1969年12月22日～1970年5月25日 1500㎡

奈良国立文化財研究所(当時)は、1969年に藤原宮の調査を奈良県教育委員会から引き継いだ。それまでも飛鳥藤原地域の発掘調査のための人員と予算を要求していたが、同年に調査費が認められたため、まず藤原宮南辺の調査を実施した。日本古文化研究所の調査で検出した「推定朝堂院南門」の遺構を再確認することと、その南方の状況を探ることを目的としたものである。その結果、門の遺構の他に南面内濠と外濠を検出し、この門は藤原宮南面中門の「朱雀門」であることが判明し、藤原宮の構造の解明に重要な一歩を記した。翌1970年度には人員も認められ、平城宮跡発掘調査部に飛鳥藤原宮跡調査室を設け、以後継続的に飛鳥藤原地域の調査を実施している。



南面中門(朱雀門)検出状況(南から)
※調査区後方に大極殿の森と鴨公小学校の建物が見える



第一次発掘調査風景(北から)
※黄昏時まで発掘作業に没頭する様子は、今も同じ…

第五〇次調査 石神遺跡の調査

2007年10月1日～2008年2月14日 484㎡

飛鳥に所在する石神遺跡の第二〇次調査。石神遺跡からは明治時代の1902・03年に須弥山石や石人像が出土しており、1981年から遺跡の内容を解明するための調査を継続的に実施した。その結果、7世紀から8世紀初めにかけての大遺跡であることが判明し、7世紀中頃の斉明朝には饗宴施設、天武朝から藤原宮期には官衙的な施設が置かれていたと考えられている。本調査は遺跡の範囲を確定することを目的としたもので、調査の結果、石組溝や掘立柱堀、および東限に関わると考えられる掘立柱建物を検出した。次年度の第一五六次(石神第二二次)調査で東限施設を確認し、現在は遺跡の内容や性格の詳しい分析を進めている。



遺跡東限に関わる東西調査区(北から)
※両調査区にまたがった位置に掘立柱建物がある



西側調査区全景(西から)
※斉明朝の石組東西溝と石組基幹水路が接続

第五〇次調査 藤原京 左京六条三坊の調査

1986年7月28日～12月19日 2500㎡

藤原京左京六条三坊の調査。飛鳥藤原宮跡発掘調査部(現都城発掘調査部飛鳥藤原地区)の新庁舎建設に伴い実施した。東三坊坊間路上に大規模な建物を検出したことにより、四町占地の土地利用があったことが初めて判明するという画期的な成果が得られた。この施設は京職(京の一般行政をつかさどる役所)で、大宝元年(701)以降は左京職となる。また、平城京への遷都以降も、大規模な施設が置かれていた。遺物では緑釉獣脚硯が注目され、木簡には「左京職」、「菜取司」の役所名を記したのものや、霊亀3年(717)の紀年をもつ稲の収納に係わる木簡がある。



掘立柱東西棟建物の検出状況(北から)
※奈良時代の建物かと思われたが、藤原京期と判明



緑釉獣脚硯
※硯の側面と獣脚は唐草文で飾っている

第二〇〇次調査 藤原宮 大極殿院の調査

2019年4月23日～調査中 1179㎡

藤原宮の大極殿院は周囲を回廊で囲まれた南北165メートル、東西120メートルの広大な区画で、四面に門が開く。内庭部は礎敷きの空間で、中央やや南に大極殿が一棟だけ建つと復原されてきた。本調査は大極殿院東北部の様相解明を目的として実施したもので、東面北回廊に取り付く桁行7間、梁行2間の大極殿後方東回廊を検出した。この発見は、これまで空閑地と考えられていた大極殿院北半部にも施設が存在することが明らかとなったもので、これまでの定説に再考を迫るとともに、藤原宮大極殿院および歴代宮殿の今後の調査研究に関して重要な問題を提起した。



大極殿後方東回廊の遺構と大極殿の森(北東から)
※大極殿の背後を区切る施設の存在が明らかとなった



大極殿後方東回廊礎石据付痕跡検出状況(北から)
※この発見が新たな事実の解明につながった

第一〇〇次調査 藤原宮 内裏の調査

1999年7月1日～11月11日 2070㎡

藤原宮内裏地区から朝堂院の調査。藤原宮中庭部の構造は日本古文化研究所の調査で概略が明らかとなっていたが、細部については多くの問題が残っていた。そうした課題を解明するための調査で、以後、朝堂院や大極殿院の調査を継続的に進めていくことになる。調査の結果、内裏南辺の区画堀などを新たに検出し、「東楼」は桁行7間または9間(第一一七次調査で9間と判明)、梁行4間の四面廂付東西棟礎石建物であることがわかった。また、先行条坊が二時期あるという知見を得、藤原京の造営に関して新たな問題を提起した。



四面廂付東西棟礎石建物の検出状況(北から)
※人が立っている場所で礎石据付穴を確認



同礎石建物の礎石据付穴(西から)
※礎石据付穴は径約4m大で、割られた礎石と根石が残る



都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)庁舎と藤原宮跡・畝傍山(東から)

※藤原宮第45・46・47・50・53次の発掘調査を経て、1988年に飛鳥・藤原地区庁舎が建設された。遺構の保存と周辺環境との調和を図るため、建物の高さは10m以下とし、2階建て部分は遺構検出面が深くなる敷地東側に建てている。主要な遺構は、タイルや陶柱・盛土や植栽で位置や規模を表示しており、区画堀の一部は当時の技法で復元している。また、調査成果を公開する展示室を設けており、調査研究活動はもちろんのこと、遺跡の保存と公開活用にも配慮した施設となっている。

1969年 第1次 藤原宮朱雀門・内濠・外濠



1986年 第50次 藤原京左京六条三坊



1999年 第100次 藤原宮内裏



2007年 第150次 石神遺跡



2019年 第200次 藤原宮大極殿院



五〇年二〇〇次 のあゆみ

奈良文化財研究所
飛鳥藤原地域発掘調査



奈良文化財研究所
飛鳥藤原地域発掘調査
五〇年二〇〇次のあゆみ

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 都城発掘調査部
〒634-0025 奈良県橿原市木之本町 94-1 <https://www.nabunken.go.jp>
2019.10.6